

「避難所におけるペット同行避難対策推進の手引き」 要旨

1 本編

区分	項目	要旨
はじめに	手引きの構成	<ul style="list-style-type: none"> 本書はペットを受け入れる避難所での飼養場所・飼養方法を定める際の道筋を示す手引きであり、本編と資料編で構成している。 主に市町村が平時に活用することを想定している。
	本編の使い方	<ul style="list-style-type: none"> 市町村が平時からペット同行避難体制を整備するために必要となる基本原則・基本方針、避難所での具体的な準備、地域での取組を体系的に示しており、実務上生じる疑問に沿って必要な検討事項を参照できる構成としている。
第1章 手引き作成の背景と 基本原則	手引き作成の背景	<ul style="list-style-type: none"> 近年の多くの災害では、ペットを受け入れるための対応や対策は必ずしも十分に整備されていなかったため、ペットを連れて避難してよいか判断できないこと、動物が苦手な避難者等との摩擦が生じたこと、周囲に遠慮して車中泊・在宅避難へ移行したことなどの問題が見られた。 市町村には避難所の設置・運営の主体として、ペット同行避難に関する基本方針の明確化、避難所における受入方法や運用ルールの整理、住民や関係者への周知を計画的に進める役割が求められている。
	ペット同行避難対策における基本原則	<ul style="list-style-type: none"> 市町村は、避難所におけるペット同行避難対策を進めるにあたり、次の基本原則を理解しておく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 飼い主がペットを理由に避難をためらうことのないように、ペットと共に安心して避難できる環境を提供することを基本とすること。 ➤ 他の避難所利用者への配慮と、ペット自身の健康に配慮した適正飼養との両立により、良好な避難生活を送るための環境を確保することが重要である。 ➤ 平時からペットの受入方針やルールを整理し、地域住民などへ周知することが大切であり、災害時には地域の実状に合わせた対応が必要である。 ➤ 飼い主、避難所運営者、施設管理者、市町村、動物関係従事者などが、それぞれの役割を適切に果たすことが必要である。
第2章 ペット同行避難に 関する基本方針と 住民への周知	受入対象施設	<ul style="list-style-type: none"> ペット同行避難に関する基本方針を定めるためには、市町村は、ペットの受入れが可能な施設（受入対象施設）を決める必要がある。 様々な公共・民間施設の施設情報を収集・整理して候補施設を洗い出し、災害リスクと施設特性を踏まえ、どの施設を受入対象施設とするか決定する。
	受入対象とするペットの条件	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に一貫した判断ができるようにするため、受入対象とするペットの条件について考え方を示す必要がある。 対象となるペットの種類を整理し、飼養する上で必要となる条件と、施設で受け入れる際に課す条件から、受入対象とするペットの条件を決定する。
	飼養場所を設営・運営する主体	<ul style="list-style-type: none"> 平時から誰が主体となって飼養場所の設営や運営を行うのか整理しておくことが重要である。 災害時においてもペットの管理は飼い主の責務であるため、飼い主自身がペットの管理及び飼養場所の設営に協力することが基本となる。
	飼養場所等の設置・運営に係る整理事項	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場所の選定や設営方法は各施設で検討するものとし、その際の判断基準となるよう、市町村としての方針を事前に明確にしておくことが重要である。
	基本方針のとりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 「受入対象施設」、「受入対象とするペットの条件」、「飼養場所を設営・運営する主体」、「飼養場所等の設置・運営に係る整理事項」について、市町村としての基本方針として取りまとめておくことで、平時において各受入対象施設が検討を進める際に、前提となる考え方を示すことができ、災害時においても、ペット同行避難に関する市町村の考え方を、迅速に伝えることができる。
住民への周知	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の混乱を防ぐため、事前に市町村の基本方針を住民へ周知することが必要である。 受入対象施設が避難所の場合は、避難所でのペット受入れについて住民の理解を得られるように丁寧に情報提供することが大切である。 飼い主に対しては、迅速な避難を行うため、平時の備えを啓発することが重要である。 	

第3章 ペットを受け入れる 避難所で検討・準備 すべき事項	飼養場所の選定	<ul style="list-style-type: none"> • ペットを受け入れる避難所でペットを安全かつ円滑に受け入れるため、飼養場所を事前に決めておくことは最も重要なことの1つである。 • 避難所に関する資料を収集し、避難所をどのように設営することになっているか確認する。 • 避難所に関する資料をもとに、ペットの飼養に適していると考えられる場所について、複数の候補場所を洗い出し、「飼い主」「避難所運営者」「施設管理者」それぞれの視点から、飼養場所の候補を確認し、選定する。
	ペットの経路の設定	<ul style="list-style-type: none"> • 飼い主とペットが避難所内をどのように移動するか、事前に経路を設定する。 • 混雑やトラブルの発生を防ぐため、ペットと他の避難所利用者との経路ができるだけ交差しないようにする。
	飼い主受付の選定	<ul style="list-style-type: none"> • 飼い主が連れてきたペットを適切に受け付けられるよう、飼い主受付を適切な場所に選定する。 • できるだけその他の避難者の受付とは分け、ペットの経路上に設置し、建物や敷地の入口付近などを基本とする。
	飼養場所の設営	<ul style="list-style-type: none"> • 人とペットが共に安全・衛生的に過ごせる環境を確保するため、区画の配置、動線、衛生管理、備品配置など、必要な設営・整備方法を検討する。
	資材の確保	<ul style="list-style-type: none"> • 飼養場所の設営や飼養管理に必要な資材について、レイアウトや設営条件に応じて、最低限必要な資材を検討する。
	飼い主の受付	<ul style="list-style-type: none"> • 避難所では飼い主とペットの情報を迅速かつ確実に把握し、安全に受け入れるため、飼い主の受付を行う。 • 飼い主から聞き取る内容（ペットの種類・頭数・健康状態など）、飼い主へ伝える内容（飼養ルールの説明、飼養場所までの案内）を整理し、受付手順を事前に検討する。
	飼い主の会の運営	<ul style="list-style-type: none"> • 市町村の基本方針を基に、ペットを受け入れる避難所における飼い主の会の具体的な役割や業務内容を、事前に検討する。
	マニュアル等への反映	<ul style="list-style-type: none"> • 検討した内容を、ペットを受け入れる避難所の現行の避難所運営マニュアルなどに反映する。
第4章 地域のみんでペット 同行避難対策を進 めるための取組	住民向けの研修を行い ましょう	<ul style="list-style-type: none"> • 飼い主を含む地域住民、避難所運営者、施設管理者、市町村職員などの関係者が、ペット同行避難対策の基本原則について理解するために、住民向けの研修を実施することが望まれる。
	ワークショップを行い ましょう	<ul style="list-style-type: none"> • 飼養場所の選定・設営方法・運営方法の具体的な検討方法として、ペットを受け入れる避難所の関係者で集まり、現地確認と意見交換を行うワークショップを実施することが望まれる。
	ペット同行避難者の受 入訓練を行いましょう	<ul style="list-style-type: none"> • 検討した飼養場所の選定・設営方法・運営方法の確認や改善のためには、定期的な訓練が必要である。 • 訓練を通じて、飼い主が平時からどのような備えをしておくべきかを意識することが重要である。

2 資料編

(1) 「〇〇避難所ペット対応手順書（ひな形）」

災害発生時、ペットを受け入れる際の標準手順書のひな形。

(2) 研修・訓練計画例

ペット同行避難の必要性を理解するために行う研修、ペットを受け入れる避難所の具体的なペットの受入体制を関係者で検討するワークショップ、検討したペット受入体制を検証するペット同行避難訓練についての計画例。